

柏の景気情報（平成20年8月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成20年8月分）

○ 調査期間 : 平成20年8月18日 ~ 8月22日

○ 調査対象 : 柏市内111事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	111	80	72.1%
建設	19	16	84.2%
製造	26	18	69.2%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	23	17	73.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年8月の調査結果のポイント】

《業況DIは先月50ポイントよりさらに下降、原材料高騰の影響も拡大》

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲55.0(前月水準▲50.0)となり、マイナス幅が▲5.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲55.1(同▲70.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲58.8(同▲35.2)、製造業▲38.8(同▲26.3)、建設業▲68.7(同▲60.0)であり、特にサービス業はマイナス幅が▲23.6ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「春の停滞から流れは良くなったように思うが、決して楽観視できる状況ではない」(板金・金物工事業)、「お客様の省エネ・エコ製品について意識は高いが、販売(工事など)に繋がらない。先行き、省エネ関係の受注は多くなるのではと期待はしているが」(電気工事業)といったコメントが寄せられた。

【製造業】では、「今後設備投資は減少すると思われ、受注の減少傾向が出始めている」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「売上は増加しているが、利益に反映されない」(その他の鉄鋼業)、「建築法改正に伴い、人件費増となり負担が増大」(その他の設備工事業)などのコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「暑さのせいもあるが、秋物に動きがない。消費者の買い控えムードも強く、小売りにとっては厳しい環境が続くそうである」(その他の各種商品小売業)、「地域の大型小売店(SCを含む)では、食料品は堅調、ファッション衣料、ラグジュアリーブランドが苦戦というのが共通の図式になっている。原油価格、原材料価格の上昇は構造的な要因に起因しているため、今後とも継続するものと思う」(百貨店)といった声のほか、「ますます景気は悪くなっていくと思う。小売業者にとっては新しい提案型販売方法がより必要となってくる」(各種食料品小売業)といった価格高騰からくる業況悪化への懸念の声が寄せられた。

【サービス業】は、「先月に比べて悪化した。正社員からアルバイトパートへ移行したが、アルバイトの出勤も抑えている。

近くに飲食店の新規出店があり、やる気のある若い経営者で、同業者が集積して喜ばしいと考えている。現状は予定集客数がまだのようであるが、ともに頑張っていきたい」(酒場・ビヤホール)、「人材の確保も困難になってきました」(獣医業)という、人材不足や人件費に関する声が多く寄せられたほか、「宴会は対前年プラスも宿泊は対前年マイナスで、全体では不変。仕入れ単価等の上昇も他経費を絞り、採算は不変」(ホテル)といったコメントも寄せられた。

◎原材料高騰

各業種から「原材料の値上げ止まらず。特に食用油64%アップ」(菓子・パン小売業)、「メーカー品や包装資材の値上げが多く、その分売価に反映できていないのが現状。営業の不振とダブルパンチでかなりの苦戦を強いられています」(食料・飲料卸売業)、「原材料の値上がり分(小麦・油・肉・乳製品・一般食材)を献立(メニュー)に転嫁できない状況、他社(他店)の様子見て厳しい」(その他の飲食料品小売業)、「メーカー各社が原材料高騰を理由に数カ月おきに価格改定を通告してきている。この動きが止まらず、対応に追われる毎日。前向きな営業ができず苦労している」(塗料卸売業)、「天候が不順のため来客数が読めない。原材料の価格高騰が続いているが、安定しないため、価格転嫁ができない」(食堂・レストラン)といったコメントが多く寄せられるとともに、材料費は高騰してもそれを価格転嫁できていないという、厳しい状況があるという声があがっている。

◎人件費増・人材不足

各業種から「最近20代の応募がなく、30代後半から40代の転職者の応募が多くなった。会社としては若い20代を希望しているが、他社の方は人材確保をどうしているのか知りたい」(家庭用機械器具小売業)、「建築法改正に伴い、人件費増となり負担が増大」(その他の設備工事業)、「近隣の何か所もある大型店の影響で、人材不足や賃金の高騰など、近年は頭を悩ませており、当店もやむなく9月より値上げする。どうなるか不安はあるが、今の状況を維持することが大変」(そば・うどん店)、「人材の確保も困難になってきました」(獣医業)といった声も寄せられた。

◎さらなる悪化への懸念

各業種から「原材料・原油・水光熱費の増がこのまま続くと、厳しい業況になる」(ホテル)、「ますます景気は悪くなっていくと思う。小売業者にとっては新しい提案型販売方法がより必要となってくる」(各種食料品小売業)、といったいずれも材料高騰を原因とし、先行き不安や悪化への懸念を表したコメントが多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲40.5	▲57.1	▲22.2	▲54.8	▲18.7
4月	▲41.9	▲38.4	▲20.0	▲54.8	▲47.0
5月	▲34.2	▲42.8	▲5.2	▲40.7	▲50.0
6月	▲45.0	▲43.7	▲22.2	▲58.6	▲47.0
7月	▲50.0	▲60.0	▲26.3	▲70.3	▲35.2
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
見通し	▲53.7	▲43.7	▲44.4	▲65.5	▲52.9

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成20年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲55.0(前月水準▲50.0)となり、マイナス幅が▲5.0ポイント拡大した。

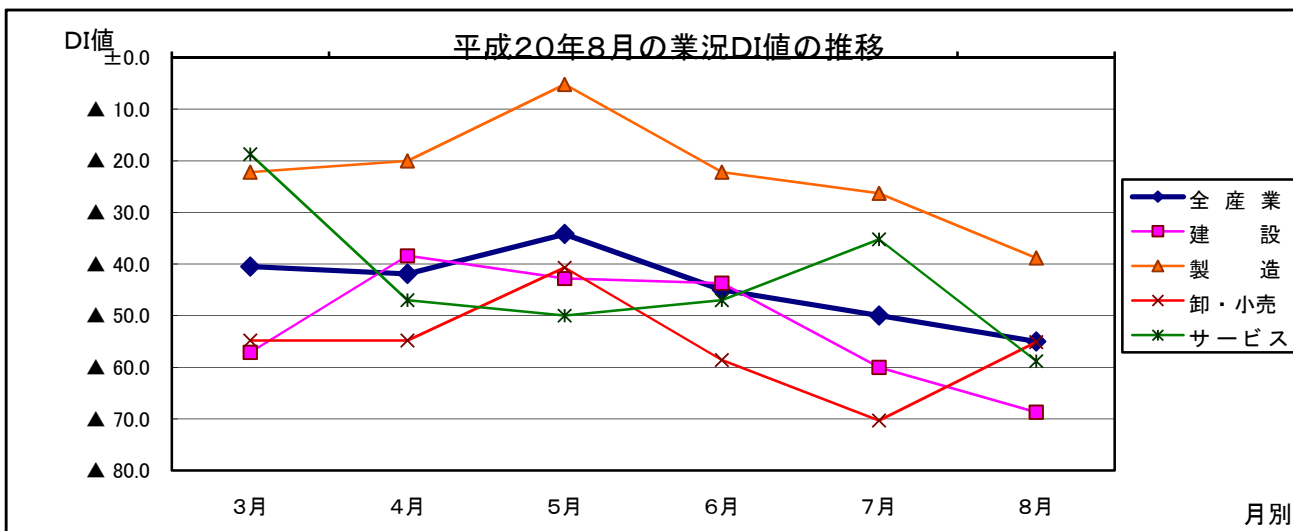
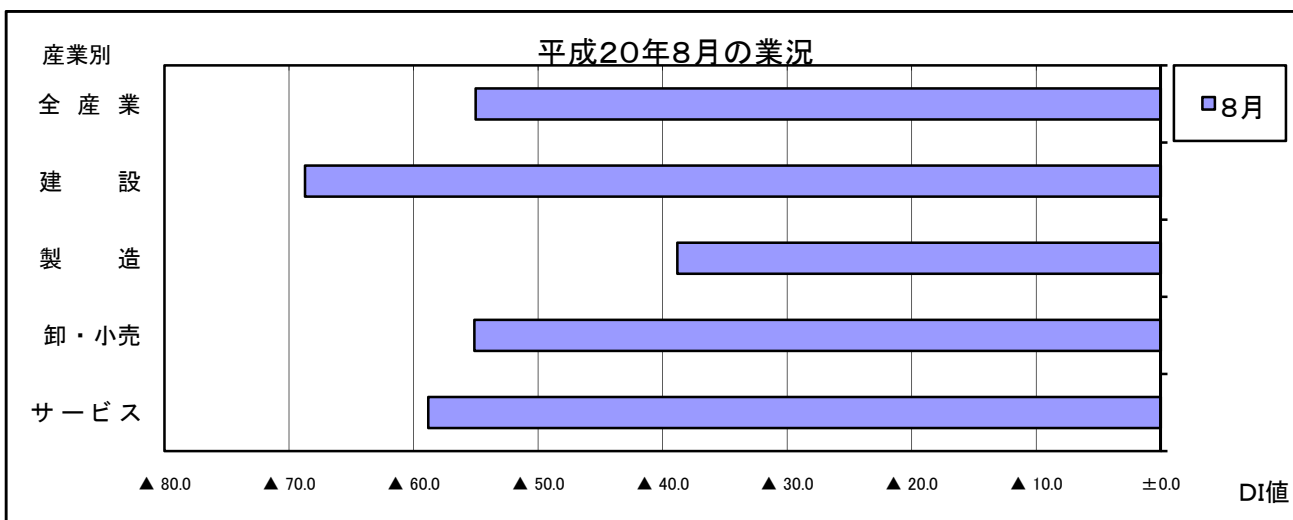
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲55.1(同▲70.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲58.8(同▲35.2)、製造業▲38.8(同▲26.3)、建設業▲68.7(同▲60.0)であり、特にサービス業はマイナス幅が▲23.6ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲53.7(前月水準▲47.4)となり、マイナス幅が▲6.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない業種はサービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲44.4(同▲31.5)、卸小売業▲65.5(同▲59.2)、建設業▲43.7(同▲40.0)である。

平成20年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月～11月(8月～10月)
全産業	▲40.5	▲41.9	▲34.2	▲45.0	▲50.0	▲55.0	▲53.7(▲47.4)
建設	▲57.1	▲38.4	▲42.8	▲43.7	▲60.0	▲68.7	▲43.7(▲40.0)
製造	▲22.2	▲20.0	▲5.2	▲22.2	▲26.3	▲38.8	▲44.4(▲31.5)
卸・小売	▲54.8	▲54.8	▲40.7	▲58.6	▲70.3	▲55.1	▲65.5(▲59.2)
サービス	▲18.7	▲47.0	▲50.0	▲47.0	▲35.2	▲58.8	▲52.9(▲52.9)



【平成20年8月の売上についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.2(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大した。

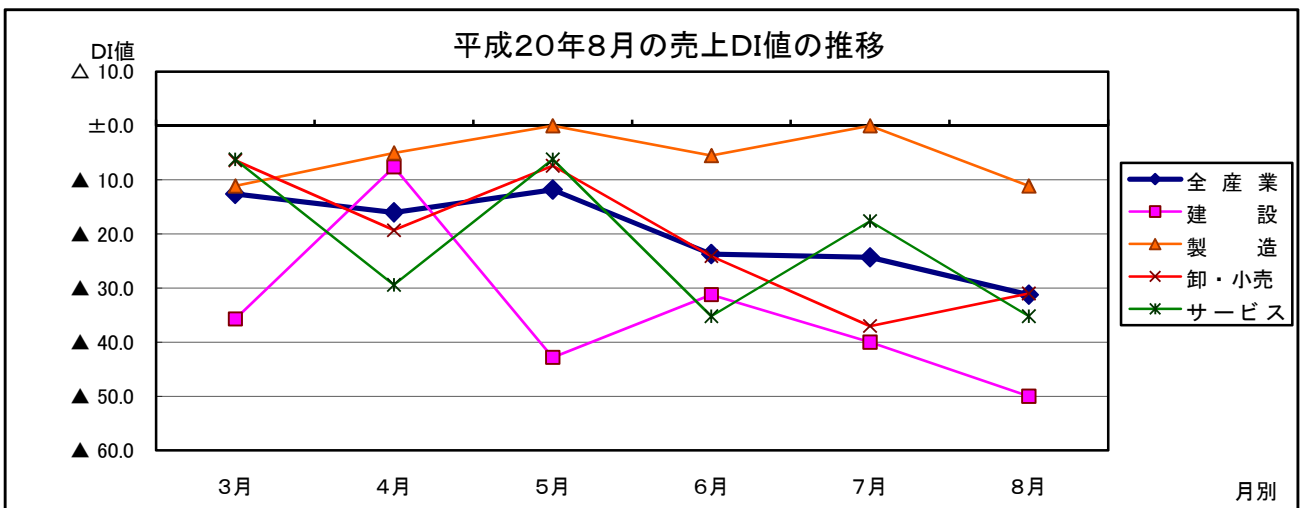
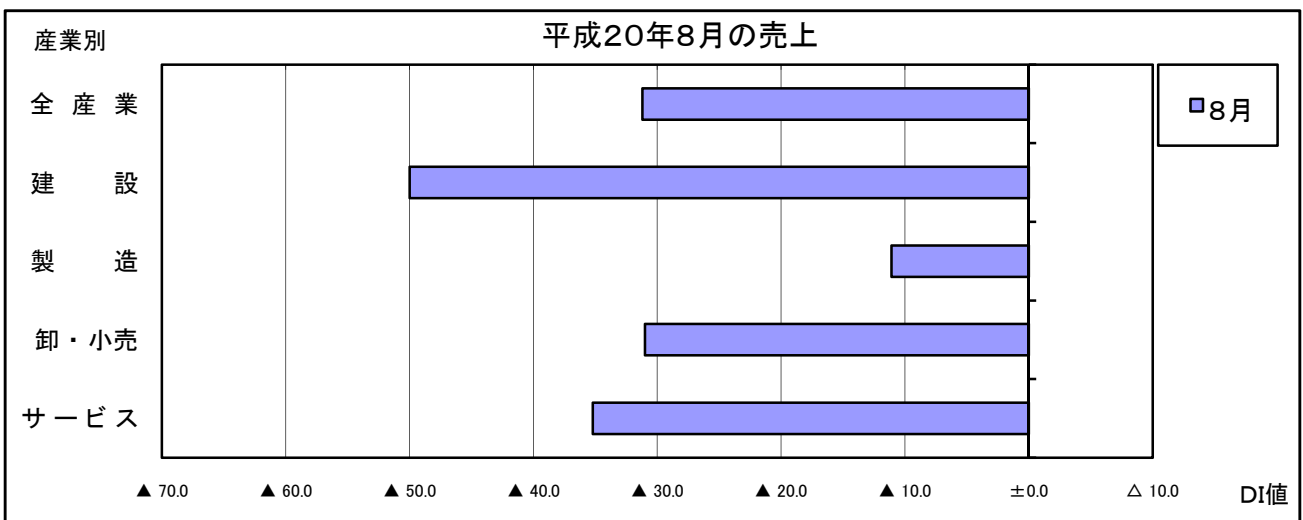
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲31.0(同▲37.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.2(同▲17.6)、製造業▲11.1(同±0.0)、建設業▲50.0(同▲40.0)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.7(前月水準▲29.4)となり、マイナス幅が△5.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲29.4(同▲47.0)、卸小売業▲27.5(同▲40.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.1(同▲5.2)、建設業▲25.0(同▲20.0)である。

平成20年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲12.6	▲16.0	▲11.8	▲23.7	▲24.3	▲31.2	▲23.7(▲29.4)
建設	▲35.7	▲7.6	▲42.8	▲31.2	▲40.0	▲50.0	▲25.0(▲20.0)
製造	▲11.1	▲5.0	±0.0	▲5.5	±0.0	▲11.1	▲11.1(▲5.2)
卸・小売	▲6.4	▲19.3	▲7.4	▲24.1	▲37.0	▲31.0	▲27.5(▲40.7)
サービス	▲6.2	▲29.4	▲6.2	▲35.2	▲17.6	▲35.2	▲29.4(▲47.0)



【平成20年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲52.5(前月水準▲50.0)となり、マイナス幅が▲2.5ポイント拡大した。

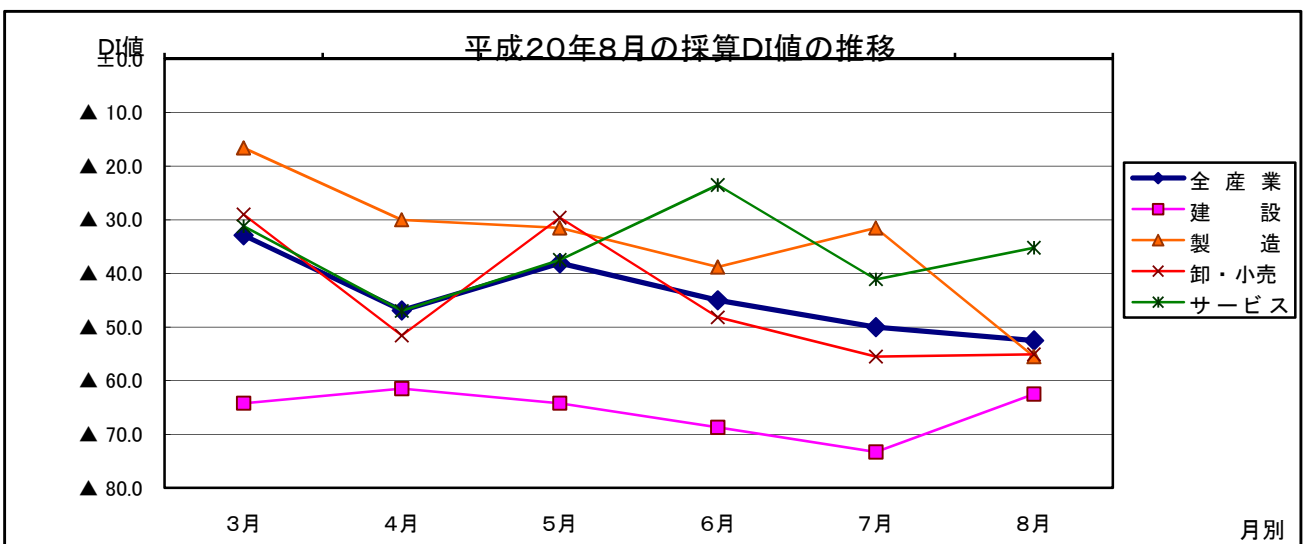
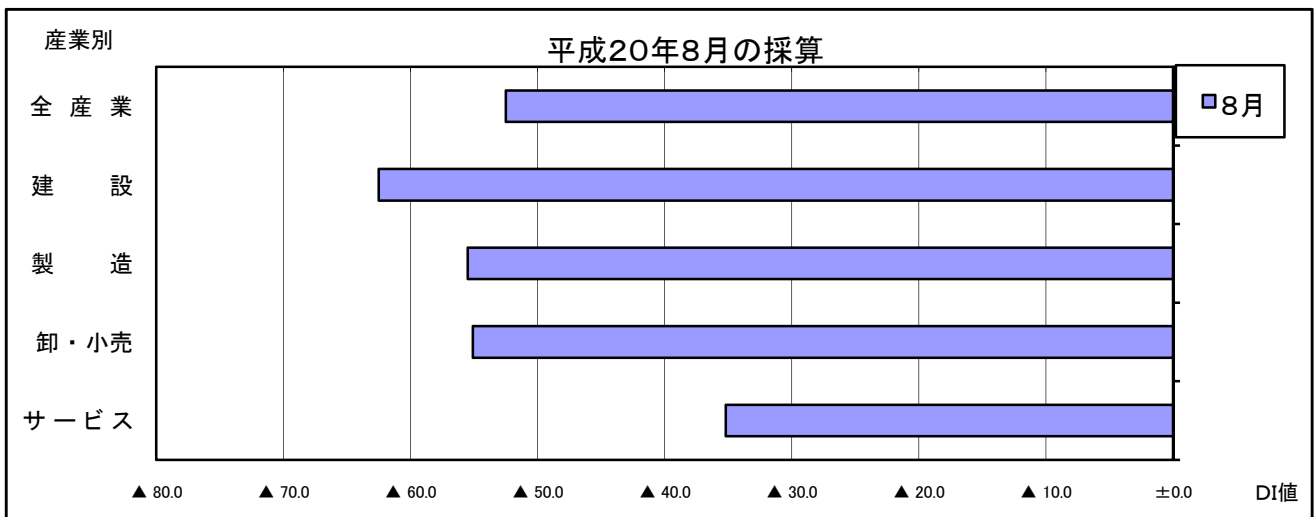
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲62.5(同▲73.3)、サービス業▲35.2(同▲41.1)、卸小売業▲55.1(同▲37.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲55.5(同▲31.5)で、特にマイナス幅が▲24.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲42.5(前月水準▲42.3)となり、マイナス幅が▲0.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.1(同▲52.9)、製造業▲27.7(同▲31.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲40.0)、卸小売業▲48.2(同▲44.4)である。

平成20年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲32.9	▲46.9	▲38.1	▲45.0	▲50.0	▲52.5	▲42.5(▲42.3)
建設	▲64.2	▲61.5	▲64.2	▲68.7	▲73.3	▲62.5	▲50.0(▲40.0)
製造	▲16.6	▲30.0	▲31.5	▲38.8	▲31.5	▲55.5	▲27.7(▲31.5)
卸・小売	▲29.0	▲51.6	▲29.6	▲48.2	▲55.5	▲55.1	▲48.2(▲44.4)
サービス	▲31.2	▲47.0	▲37.5	▲23.5	▲41.1	▲35.2	▲41.1(▲52.9)



【平成20年8月の仕入単価についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲65.0(前月水準▲74.3)となり、マイナス幅が▲9.3ポイント縮小した。

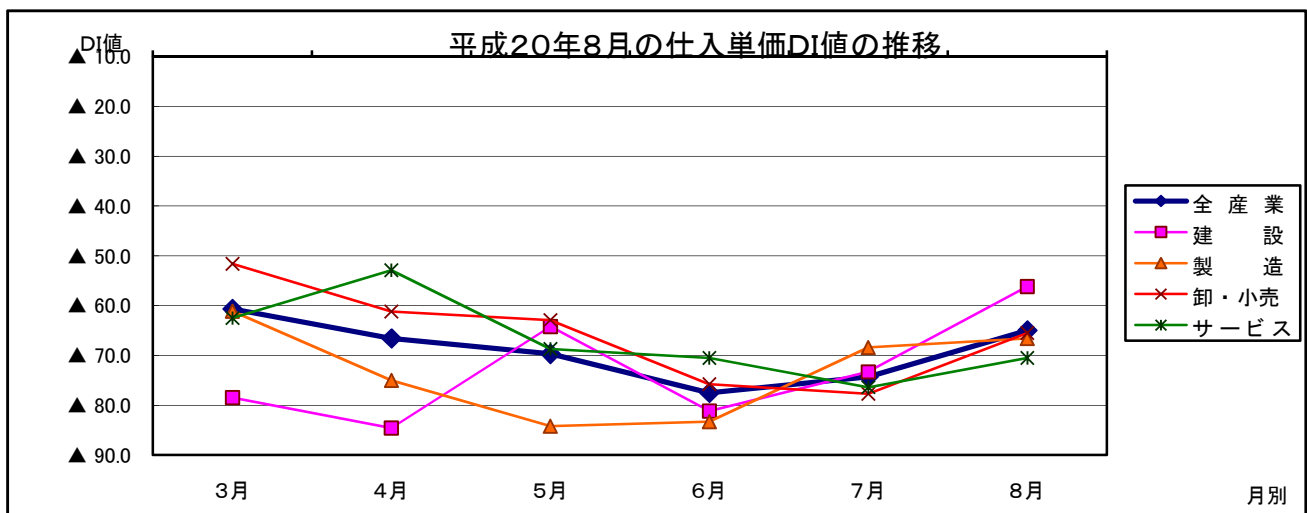
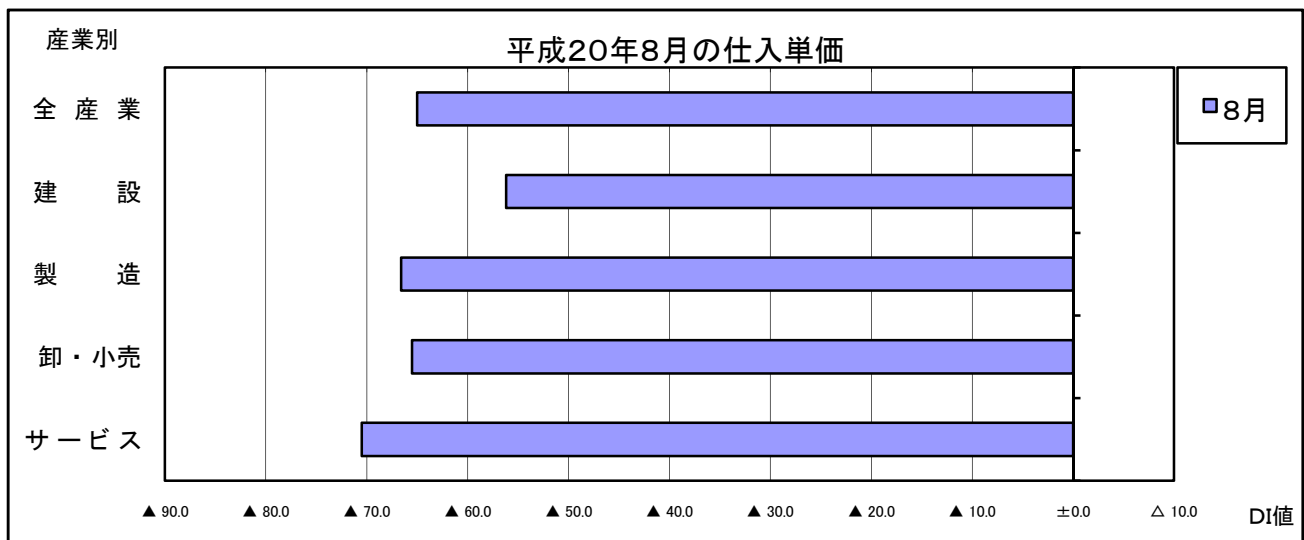
業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小した。幅の大きい順に、建設業▲56.2(同▲73.3)、卸小売業▲65.5(同▲77.7)、サービス業▲70.5(同▲76.4)、製造業▲66.6(同▲68.4)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲61.2(前月水準▲67.9)となり、マイナス幅が△6.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小する見通し。幅の大きい順に、サービス業▲58.8(同▲76.4)、建設業▲50.0(同▲60.0)、製造業▲66.6(同▲68.4)、卸小売業▲65.5(同▲66.6)である。

平成20年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し
	3月						9月~11月(8月~10月)
全産業	▲60.7	▲66.6	▲69.7	▲77.5	▲74.3	▲65.0	▲61.2(▲67.9)
建設	▲78.5	▲84.6	▲64.2	▲81.2	▲73.3	▲56.2	▲50.0(▲60.0)
製造	▲61.1	▲75.0	▲84.2	▲83.3	▲68.4	▲66.6	▲66.6(▲68.4)
卸・小売	▲51.6	▲61.2	▲62.9	▲75.8	▲77.7	▲65.5	▲65.5(▲66.6)
サービス	▲62.5	▲52.9	▲68.7	▲70.5	▲76.4	▲70.5	▲58.8(▲76.4)



【平成20年8月の従業員についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△5.0(前月水準△6.4)となり、プラス幅が▲1.4ポイント縮小した。

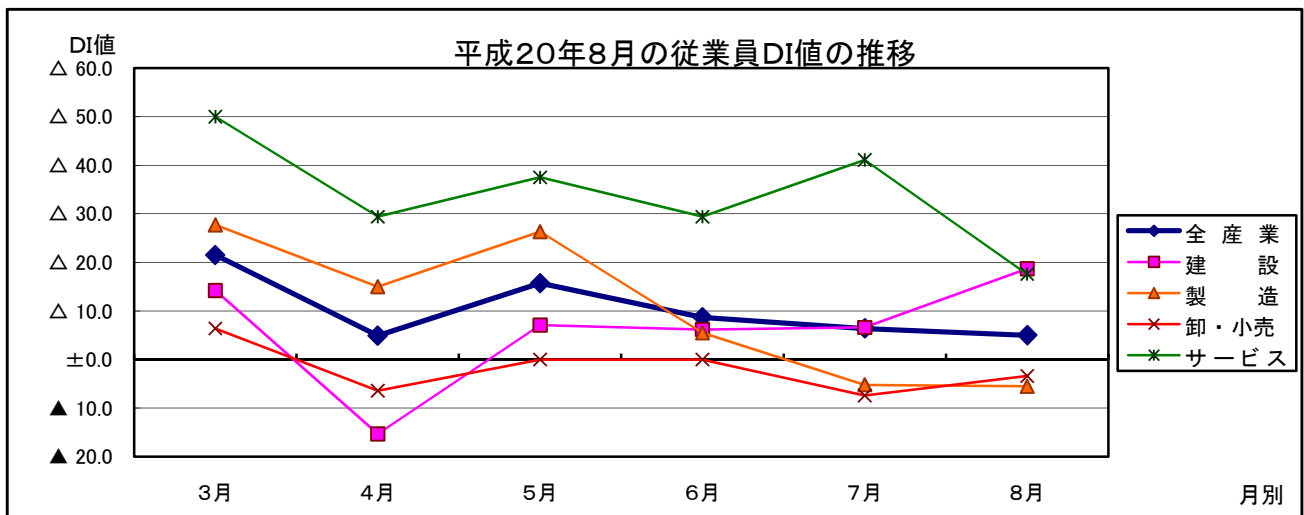
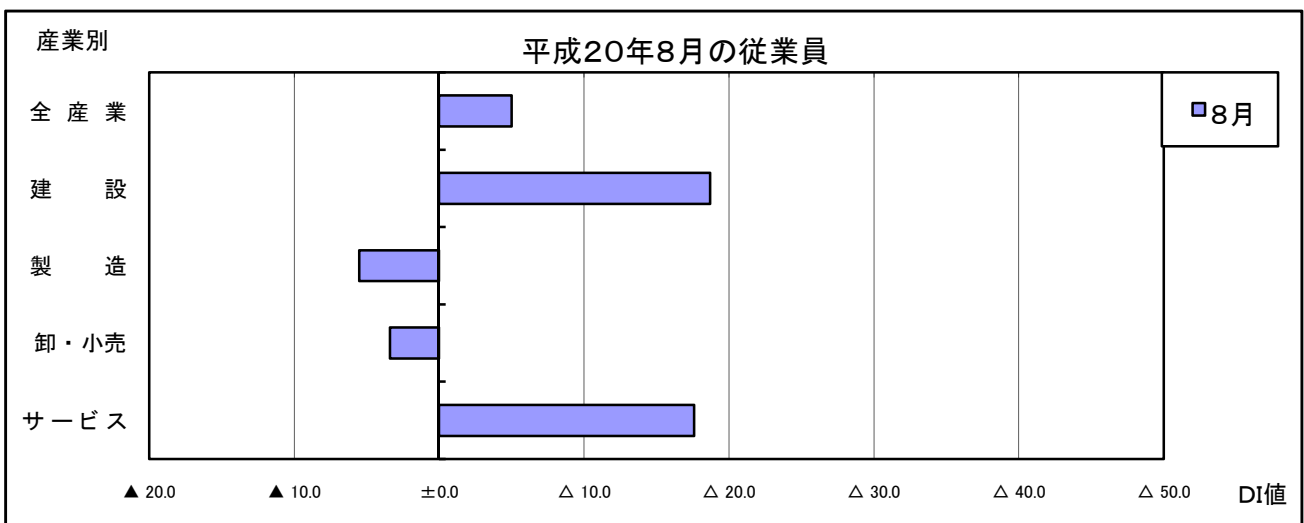
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△18.7(同△6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲3.4(同▲7.4)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△17.6(同△41.1)であり、プラス幅は▲23.5ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲5.5(同▲5.2)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△3.7(前月水準△1.2)となり、プラス幅が△2.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲11.1)である。変らない見通しの業種は、サービス業23.5△(同△23.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲5.2)である。

平成20年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△ 21.5	△ 4.9	△ 15.7	△ 8.7	△ 6.4	△ 5.0	△ 3.7 (△ 1.2)
建設	△ 14.2	▲ 15.3	△ 7.1	△ 6.2	△ 6.6	△ 18.7	±0.0 (△ 6.6)
製造	△ 27.7	△ 15.0	△ 26.3	△ 5.5	▲ 5.2	▲ 5.5	▲ 5.5 (▲ 5.2)
卸・小売	△ 6.4	▲ 6.4	±0.0	±0.0	▲ 7.4	▲ 3.4	±0.0 (▲ 11.1)
サービス	△ 50.0	△ 29.4	△ 37.5	△ 29.4	△ 41.1	△ 17.6	△ 23.5 (△ 23.5)



【平成20年8月の資金繰りについての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.0(前月水準▲20.5)となり、マイナス幅が▲9.5ポイント拡大した。

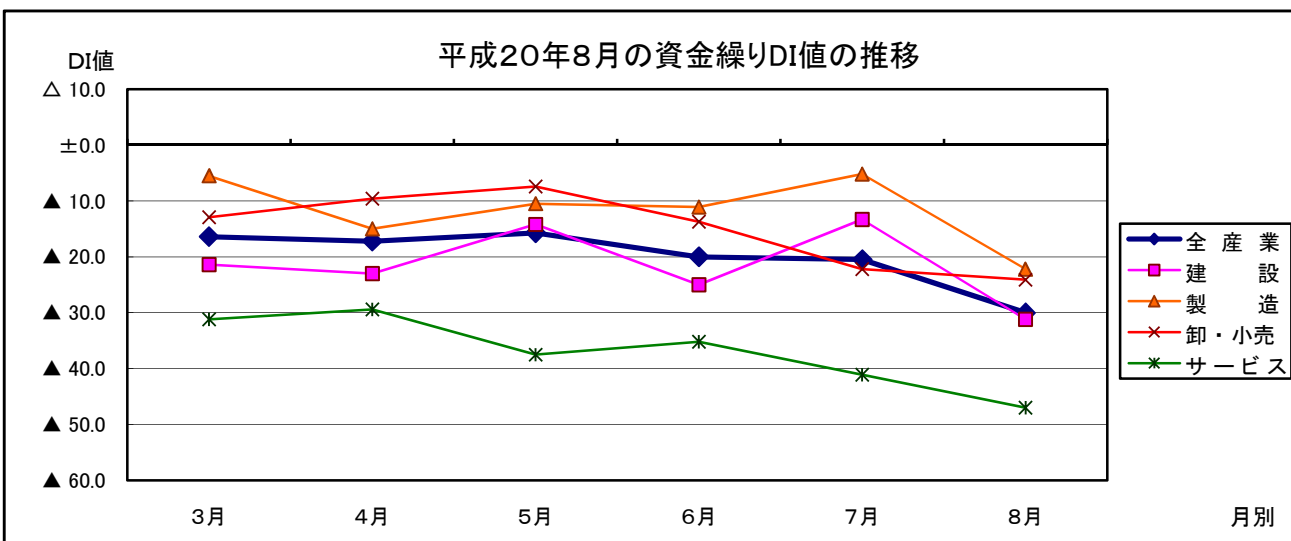
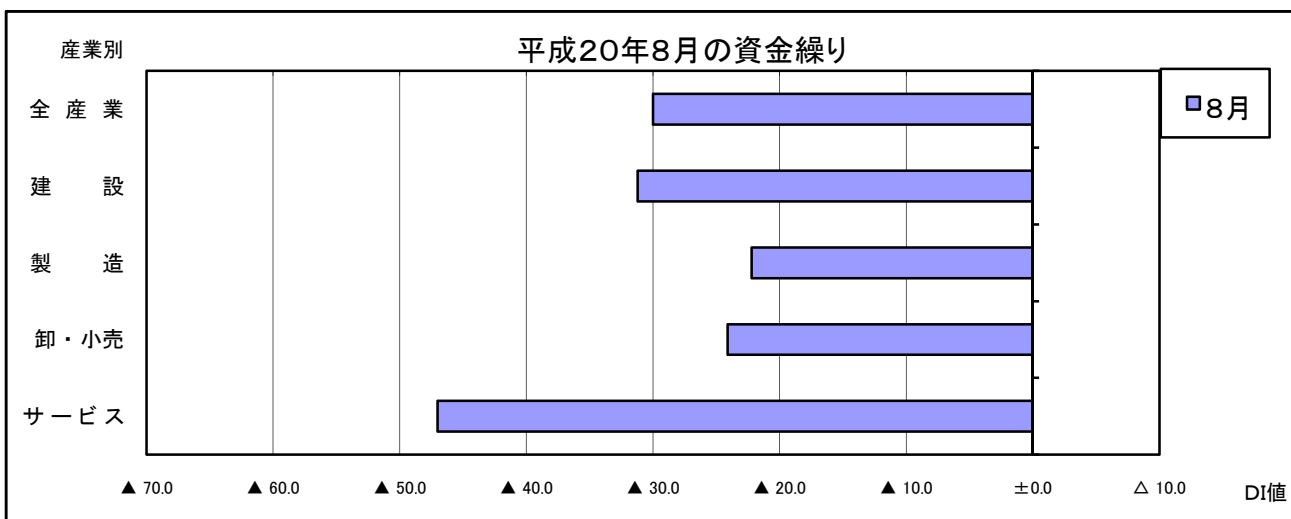
業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が拡大した。幅の大きい順に、建設業▲31.2(同▲13.3)、製造業▲22.2(同▲5.2)、サービス業▲47.0(同▲41.1)、卸小売業▲24.1(同▲22.2)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.5(前月水準▲26.9)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.1(同▲25.9)、建設業▲25.0(同▲26.6)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲41.1(同▲41.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲22.2(同▲15.7)である。

平成20年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し
	3月						9月~11月(8月~10月)
全産業	▲16.4	▲17.2	▲15.7	▲20.0	▲20.5	▲30.0	▲27.5(▲26.9)
建設	▲21.4	▲23.0	▲14.2	▲25.0	▲13.3	▲31.2	▲25.0(▲26.6)
製造	▲5.5	▲15.0	▲10.5	▲11.1	▲5.2	▲22.2	▲22.2(▲15.7)
卸・小売	▲12.9	▲9.6	▲7.4	▲13.7	▲22.2	▲24.1	▲24.1(▲25.9)
サービス	▲31.2	▲29.4	▲37.5	▲35.2	▲41.1	▲47.0	▲41.1(▲41.1)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 31.2	▲ 23.7	▲ 52.5	▲ 42.5	▲ 65.0	▲ 61.2	△ 5.0	△ 3.7
建設	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 62.5	▲ 50.0	▲ 56.2	▲ 50.0	△ 18.7	±0.0
製造	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 55.5	▲ 27.7	▲ 66.6	▲ 66.6	▲ 5.5	▲ 5.5
卸・小売	▲ 31.0	▲ 27.5	▲ 55.1	▲ 48.2	▲ 65.5	▲ 65.5	▲ 3.4	±0.0
サービス	▲ 35.2	▲ 29.4	▲ 35.2	▲ 41.1	▲ 70.5	▲ 58.8	△ 17.6	△ 23.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 55.0	▲ 53.7	▲ 30.0	▲ 27.5
建設	▲ 68.7	▲ 43.7	▲ 31.2	▲ 25.0
製造	▲ 38.8	▲ 44.4	▲ 22.2	▲ 22.2
卸・小売	▲ 55.1	▲ 65.5	▲ 24.1	▲ 24.1
サービス	▲ 58.8	▲ 52.9	▲ 47.0	▲ 41.1

【平成20年8月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	あまりよい要素は見当たらない	・好材料なし	一般土木建築工事業
	春の停滞から流れは良くなったように思うが、決して楽観視できる状況ではない。	・厳しい業況	板金・金物工事業
	今までは募集すると20代が多かったのですが、最近では20代の応募がなく、30代後半から40代の転職者の応募が多くなりました。会社としては若い20代を希望しているのですが、他社の方は人材確保をどうしているの	・人材確保	家庭用機械器具小売業
	お客様の省エネ・エコ製品について意識は高いが、販売(工事など)に繋がらない。先行き、省エネ関係の受注は多くなるのではと期待はしている	・エコ製品 ・受注増への期待	電気工事業
製造	今後設備投資は減少すると思われ、受注の減少傾向が出始めている。	・受注減少	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	売上は増加しているが、利益に反映されない	・売上増加 ・利益横ばい	その他の鉄鋼業
	建築法改正に伴い、人件費増となり負担が増大	・建築法改正 ・人件費増加	その他の設備工事業
	鋳物・鋼材の値上げ要求が多くなっている。当社の加工外注委託先情報として、以前に比べ仕事の入り方が少なくなっている。一般外注先状況としては、全体的に仕事量が減っている。新規外注業者からの請け負い依頼が多くなってきている	・鋼材値上げ ・受注減少	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	メーカー品や包装資材の値上げが多く、その分売価に反映できていないのが現状。営業の不振とダブルパンチでかなりの苦戦を強いられています。	・原材料高騰 ・価格転嫁 ・業績不振	食料・飲料卸売業
	地域の大型小売店(SCを含む)では、食料品は堅調、ファッション衣料、ラグジュアリーブランドが苦戦というのが共通の図式になっている。原油価格、原材料価格の上昇は構造的な要因に起因しているため、今後とも継続するものと思う。	・食料品堅調 ・衣料品不調 ・原材料高騰	百貨店
	ますます景気は悪くなっていくと思う。小売業者にとっては新しい提案型販売方法がより必要となってくる。	・更なる悪化への懸念 ・提案型販売	各種食料品小売業
	先月よりタスポの影響でコンビニの売り上げは大きく伸びている。ただ、例年だと7月より8月の売り上げの方が高いことが多いが、今年は7月より若干売上が落ちている。昨年は8月中旬より気温の低い日が多い。お客様の季節感が速まっているような感じ。	・売上伸長 ・天候の影響	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	原材料の値上げ止まらず。特に食用油64%アップ	・原材料高騰	菓子・パン小売業
	原材料の値上がり分(小麦・油・肉・乳製品・一般食材)を献立(メニュー)に転嫁できない状況、他社(他店)の様子見て厳しい	・原材料高騰 ・価格転嫁	その他の飲食料品小売業
	8月仕入れ価格1リットル5円アップ。また上昇するかと思っただ、下落に転ずることもあり。備蓄については限度あるものの、仕入れのタイミングに一喜一憂しているときである。	・原油高騰	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	暑さのせいもあるが、秋物に動きがない。消費者の買い控えムードも強く、小売りにとっては厳しい環境が続くそうである。	・天候の影響 ・買い控え傾向 ・厳しい業況	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	売上が悪い	・売上不振	婦人・子供服小売業

【平成20年8月の業種別業界内トピックス】

	8月度、昨年3月に東急ハンズがオープンしたことによる反動および、前月のセール明けから大型衣料品店が2店舗改装休業したことから、入店客数・売り上げともに、月初から前年を下回る推移となった。中旬以降、昨年のハンズオープンの景気が落ち着いたため、売上高は若干回復したが、大型店「東急ハンズ」のセールとなる「ハンズメッセ」が月内における期間短縮により、売上高は苦戦が予想される。8月は毎年恒例の「AJIウキウキOishiiWeek」を月末まで開催、イベントによる顧客導入を図る。	・催事	各種商品小売業
	同地域で7・8月に撤退店舗が3件あった。消費者の財布のひもが緩む要因が見当たらない。	・買い控え傾向	書籍・文房具小売業
	メーカー各社が原材料高騰を理由に数カ月おきに価格改定を通告してきている。この動きが止まらず、対応に追われる毎日。前向きな営業ができず苦労している。	・原材料高騰 ・価格改定 ・営業苦戦	塗料卸売業
サービス	天候が不順のためか来客数が読めない。原材料の価格高騰が続いているが、安定しないため、価格転嫁ができない	・天候の影響 ・原材料高騰 ・価格転嫁	食堂・レストラン
	宴会は対前年プラスも宿泊は対前年マイナスで、全体では不変。仕入れ単価等の上昇も他経費を絞り、採算は不変。原材料・原油・水光熱費の増がこのまま続くと、厳しい業況になる。	・業況不変 ・更なる悪化への懸念	ホテル
	近隣の何か所もある大型店の影響で、人材不足や賃金の高騰など、近年は頭を悩ませています。当店もやむなく9月より値上げをします。どうなるか不安はありますが、今の状況を維持することが大変です。	・人材不足 ・人件費増加 ・価格改定	そば・うどん店
	先月に比べて悪化した。正社員からアルバイトパートへ移行したが、アルバイトの出勤も抑えている。近くに飲食店の新規出店があり、やる気のある若い経営者で、同業者が集積して喜ばしいと考えている。現状は予定集客数がまだのようであるが、ともに頑張っていきたい	・業況悪化 ・人件費削減	酒場・ビヤホール
	原材料高騰が続々と続いています。人材の確保も困難になってきました。	・原材料高騰 ・人材確保困難	獣医業

【平成20年8月の多い景気キーワード】

◎原材料高騰

- ・ メーカー品や包装資材の値上げが多く、その分売価に反映できていないのが現状。営業の不振とダブルパンチでかなりの苦戦を強いられている。 (食料・飲料卸売業)
- ・ 原油価格、原材料価格の上昇は構造的な要因に起因しているため、今後とも継続するものと思う。 (百貨店)
- ・ 原材料の値上げ止まらず。特に食用油64%アップ (菓子・パン小売業)
- ・ 原材料の値上がり分(小麦・油・肉・乳製品・一般食材)を献立(メニュー)に転嫁できない状況、他社(他店)の様子見て厳しい (その他の飲食料品小売業)
- ・ メーカー各社が原材料高騰を理由に数カ月おきに価格改定を通告してきている。この動きが止まらず、対応に追われる毎日。前向きな営業ができず苦 (塗料卸売業)
- ・ 原材料の価格高騰が続いているが、安定しないため、価格転嫁ができない (食堂・レストラン)
- ・ 原材料高騰が続々と続いている。 (獣医業)

◎人件費増・人材不足

- ・ 今までは募集すると20代が多かったが、最近では20代の応募がなく、30代後半から40代の転職者の応募が多くなった。会社としては若い20代を希望しているが、他社の方は人材確保をどうしているのか知りたい。 (家庭用機械器具小売業)
- ・ 建築法改正に伴い、人件費増となり負担が増大 (その他の設備工事業)
- ・ 近隣の何か所もある大型店の影響で、人材不足や賃金の高騰など、近年は頭を悩ませている。当店もやむなく9月より値上げをする。どうなるか不安はあるが、今の状況を維持することが大変。 (そば・うどん店)
- ・ 先月に比べて悪化した。正社員からアルバイトパートへ移行したが、アルバイトの出勤も抑えている (酒場・ビヤホール)
- ・ 人材の確保も困難になってきた。 (獣医業)

◎さらなる悪化への懸念

- ・ ますます景気は悪くなっていくと思う。小売業者にとっては新しい提案型販売方法がより必要となってくる。 (各種食料品小売業)
- ・ 宴会は対前年プラスも宿泊は対前年マイナスで、全体では不変。仕入れ単価等の上昇も他経費を絞り、採算は不変。原材料・原油・水光熱費の増がこのまま続くと、厳しい業況になる。 (ホテル)









平成20年8月のCCI-LOBOとの比較










- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲55.0に対し、「CCI-LOBO」が▲58.8で、マイナス幅が3.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.2に対し、「CCI-LOBO」が▲45.2で、マイナス幅が14.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が、全ての業種において良くなっており、製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲52.5に対し、「CCI-LOBO」が▲56.4で、マイナス幅が3.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業・製造業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲65.0に対し、「CCI-LOBO」が▲60.9で、マイナス幅が4.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業・製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△5.0に対し、「CCI-LOBO」が▲8.1で、13.1ポイント良い。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業とサービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.0に対し、「CCI-LOBO」が▲37.2で、マイナス幅が7.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業と製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、サービス業。


平成20年8月の柏の景気天気図










柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25









業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 55.0	 68.7	 38.8	 55.1	 58.8
CCI LOBO	 58.8	 71.4	 55.4	 58.9	 51.4


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.2	 50.0	 11.1	 31.0	 35.2
CCI LOBO	 45.2	 58.9	 41.0	 47.3	 37.6


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 52.5	 62.5	 55.5	 55.1	 35.2
CCI LOBO	 56.4	 70.4	 59.0	 49.2	 53.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 65.0	 56.2	 66.6	 65.5	 70.5
CCI LOBO	 60.9	 71.3	 70.4	 53.7	 58.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.0	 18.7	 5.5	 3.4	 17.6
CCI LOBO	 8.1	 28.6	 7.7	 1.4	 ±0.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 30.0	 31.2	 22.2	 24.1	 47.0
CCI LOBO	 37.2	 56.3	 37.7	 32.7	 30.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (8月速報)

調査期間：平成20年8月18日～22日
 調査対象：全国の404商工会議所が2580業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

各種原材料価格高騰の影響で 厳しい状況、仕入単価DIは 最悪値を更新

8月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は、(以下同じ)は6年ぶりにマイナス60台を記録した前月水準(60.5)よりマイナス幅が1.7ポイント縮小して58.8となり、悪化傾向に一服感が見られるものの、引き続き厳しい状況。

産業別の業況DIは、卸売小売でマイナス幅が拡大し、他の3業種も低水準で推移している。

一方、仕入単価DIは最悪値を更新、特に建設で厳しい状況となっている。

景気に関する声、当面する問題としては、製造など一部に好調(新興国向けの造船など、鉄鋼、機械関係の受注増加等)、先行き期待という声があるものの、その受注量・受注額ともに減少しつつあるという声もあり、今後は鈍化傾向となる見込み。また、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が依然として強い。

【建設業】「倒産件数が増加傾向にあり、業界全体に危機感が強まっている」(電気工事業)

「原材料価格の高騰で採算が悪化する中、公共事業の予算が削減されるなど厳しい状況で、倒産も増加」(建築工事業)、「原材料価格の上昇に対し、競争の激化に伴い受注価格が低下し、採算は悪化」(一般工業業)

【製造業】「原油価格の高騰に伴う包装資材をはじめとする諸経費の上昇が収益を圧迫」(パン・菓子製造業)、「諸物価高騰の影響による消費意欲の低迷に伴い、衣料品の売上が減少」(ニット・シャツ製造業)、「業況の厳しさから、新規の設備投資等の受注が減少し、収益が悪化」(輸送用機器製造業)

【卸売業】「依然として原材料価格の高騰に伴う販売価格の上昇が影響し、買い控えが目立ち売上が減少」(衣服・日用品卸売業)、「仕入価格高騰分の販売価格への転嫁は難しく、原油高の影響による諸経費の上昇もあり、採算面で厳しい状況」(他の卸売業)、「人件費の削減が行われるなど、業界全体が不況」(建築材料卸売業)

【小売業】「売上は順調に推移しているが、仕入価格の上昇が上回り、収益の確保が難しい状況」(百貨店)、「原油価格高騰の影響による車での来客数の減少に伴い、売上が悪化」(そ

他の小売業)、「売上悪化の影響から、倒産や完全撤退が相次ぐなど、明るい展望がない状況」(商店街)

【サービス業】「仕入れ価格が3カ月連続で上昇する一方、来客数・売上ともに減少するなど、厳しい状況」(食堂・レストラン)、「原油価格高騰の影響に伴う消費意欲の低迷により観光客数が減少し、売上が悪化」(一般飲食店)、「消費者の節約志向が強くなり、特に自動車を利用した来客数が減少」(旅館)

八月のキーワード

更なる悪化への懸念

各業種から業況の悪化に伴う更なる先行き不安を訴える声が寄せられている。建設からは、「鉄筋・鉄骨の仕入価格の更なる価格上昇が予定されており、業界は厳しさが増す見込み」(一宮・一般工業)、「仕入元から仕入単価値上げの申し出があり、今後の採算の悪化を懸念」(大山・管工事業)、「製造からは、「マンション業界の倒産が相次いでおり、今後も厳しい状況が続く見込み」(御坊・製材木製製造業)、「原材料価格の高騰に対する価格転嫁が進まない中、業況の悪化は先行きに大きな不安を残す」(さいたま・ブリキ缶等製造

業)、「中国・インド市場向けの受注が大幅に減少しており、今後の収益の悪化を懸念」(大阪・繊維機械製造業)との声が寄せられている。

仕入コストの更なる上昇

各業種から、原材料価格の高騰に伴う仕入コストの更なる上昇を訴える声が寄せられている。建設からは、「見積後に仕入価格が高騰し、収益が確保できない状況」(水沢・一般工業)、「原油・原材料価格高騰の影響で、資金繰りが困難になつてきている」(松戸・左官工業)、「製造からは、「前月から燃料費が大幅に値上げされ、さらに厳しい状況」(大垣・他の窯業・土石製造業)、「原油・鋼材価格のさらなる高騰に伴う生産コストの増加が、収益を圧迫」(清水・金属加工機械製造業)との声が寄せられている。また、サービスからも、「売上は多少増加しても、それ以上に仕入価格が上昇しているため、採算は悪化」(いわき・一般飲食店)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下

原油価格の高騰や、食料品をはじめ各種商品の物価上昇に対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、

「原油価格の高騰に伴う商品価格の上昇により消費意欲が低下し、売上が悪化」(藤・百貨店)、「個人消費は極めて厳しい状況が続いており、特に高額品の売上減少の影響が大きい」(横浜・百貨店)、「夏の観光シーズンの来街者は多いものの、売上の増加には結び付かない」(銚子・商店街)、「サービスからは、「お盆期間中の売上は確保も、それ以外の期間は、昨年比へて売上が減少」(野田・すし店)、「原油価格高騰などの影響で車での来客数が減少し、売上が悪化」(今治・旅館)といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲46.9	▲59.4	▲41.3	▲47.3	▲48.4	▲43.3
4月	▲50.4	▲64.6	▲43.1	▲53.6	▲52.8	▲44.4
5月	▲52.9	▲65.0	▲49.0	▲49.1	▲52.6	▲50.6
6月	▲56.0	▲67.7	▲52.4	▲52.6	▲57.7	▲51.2
7月	60.5	73.2	61.3	64.5	54.4	56.8
8月	▲58.8	▲71.4	▲55.4	▲64.7	▲58.9	▲51.4
見通し	▲56.9	▲65.6	▲52.6	▲52.3	▲58.7	▲55.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI